

学校の不審者対策 死角を探せ！

対象	教職員
コマ数	2～3 コマ

実践校：お茶の水女子大学附属幼稚園
葛飾区立東金町小学校

プログラム要素	災害への備え／情報伝達 ／判断力／コミュニケーション力・助け合い
---------	-------------------------------------

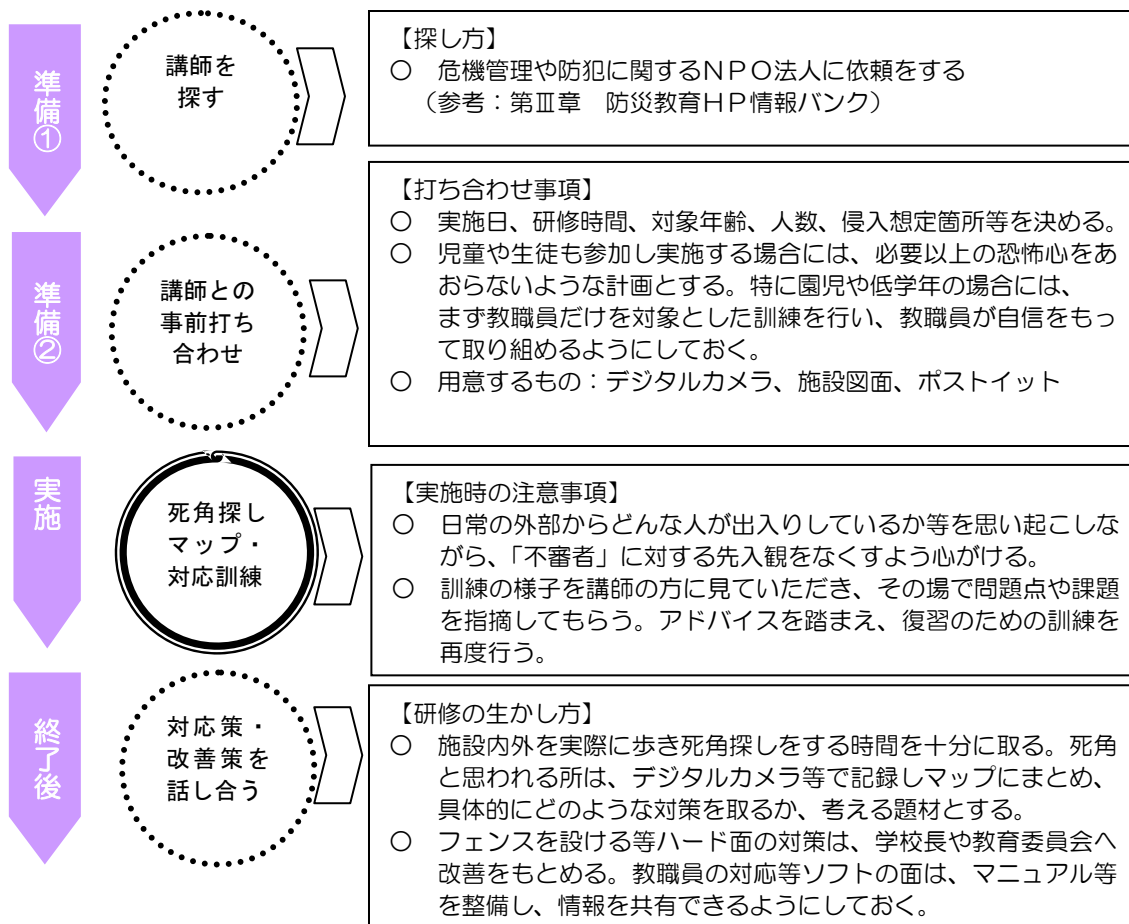
<何をやるの？>

- ☀ 子どもを預かる場としての危機管理のあり方についての講演。**施設内外の死角探し、マップ作り。不審者侵入対応訓練。**

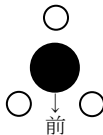

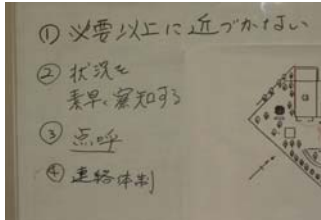



<なぜ必要なの？>



- ☀ 学校等への不審者の侵入といった事件が頻繁に起こるようになり、天災だけではなく人災に対する危機管理意識の向上が教職員にとっての課題となっている。頭でイメージするだけでなく、**シミュレーションを体験し、対処法を身に付ける。**

<プログラム実施までの流れ>



時間	内容	実施風景
14:05 ~ 14:20	<p>【講演】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもを持つ母親としての、幼稚園・保育園の教員の危機管理意識に対する期待と不安 「命を預かる立場」の再自覚を促す 「不審者」の概念を固定化しないことの重要性 普段からニュースなどに敏感になり「危険予知トレーニング」をすることのすすめ 	<p>講師：危機管理対策アドバイザー 国崎 信江氏</p> 
14:20 ~ 14:50	<p>【園内外の死角探し】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員は3名×4班にわかれ、1班は園内を、残り3班は園の周辺を3区画に分けて、死角をさがす。 各班にボランティアがつき、担当箇所をまわる。死角を見つけたらデジカメで写真を取り、ノートにメモを取る。 先生達が心配なのは、子どもが思い思いに広く自然豊かな庭で遊ぶ時間。小高い山の上までは目が届かず死角が多い。 園舎の外側についている監視カメラの見える先を追ってみると・・・誰もいない屋外の物置の屋根の上を見ていた。「死角だらけだね!」・・・多くの死角を発見し、一つ一つ検証しているとなかなか先へ進めないほど。 	 
14:50 ~ 15:00	<p>【不審者侵入対応訓練①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ボランティアの中で最も体格の良い男性が不審者役となり、園児の登校時間に保護者にまぎれて侵入したという設定 教員は普段その時間帯にいるであろう場所に配置につき、まずは体験してみる 普段玄関付近にいる用務員の方々が不審者を発見し、用件を尋ねるが、「自分の子どもに会いに来た」と言ってどンドン中へ入ってってしまう。 「お子さんの名前を教えてください」「一旦園長室でお話を聞かせてください」など必死に声をかける。 その他の教員は、幼児を教室内に避難させたり、外部への連絡をとる。 	 

<p>15:00 ～ 15:15</p>	<p>【講評とアドバイス①】</p> <ul style="list-style-type: none"> 講師より、不審者侵入対応訓練の講評していただくと共に、不審者侵入時の対応についてアドバイスを受ける。 子どもが犯罪を犯す時代。犯罪の出る前には兆候がある。町の噂など園としての情報入手が大事。教員は必ずしも地元に住んでいないため、母親から情報を収集することが大切。 訓練では第一発見者が積極的に不審者に話しかけていた。これはとても良いこと。不審者に対するときは3人くらいが周りを3角形をつくって囲むのが一番良い。 <div style="text-align: center;">  <p>○ ● ○ 前 ○</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> いざというとき、練習しておけば体が動く。警察など外部との連絡方法も完全に押さえておく。 	<p>講師：危機管理対策アドバイザー 国崎 信江氏 都市防災研究会事務局次長 澤木 優輔氏</p>  
<p>15:15 ～ 15:30</p>	<p>【不審者侵入対応訓練②】</p> <ul style="list-style-type: none"> 澤木さんのアドバイスを踏まえてもう一度訓練。今度は園児が帰ったあとに不審者が入ってきたことを想定。不審者は手に折り畳み傘をもち多少振り回す。 先ほどと同じように対応しようとするが、傘を振り回されると近寄れず、恐怖心も大きい。 外部への連絡などは役割分担しきちんと行うことが出来た。 	
<p>15:30 ～ 15:45</p>	<p>【講評とアドバイス②】</p> <ul style="list-style-type: none"> 手に凶器を持っている相手への対し方など、について講師よりアドバイスを受ける。 一人で対応しないこと。こちらも椅子やモップなどをもって相手を押したりついたりして応戦する。 澤木さんに簡単な護身術を習う。手を握られたとき、後ろからつかまれたときの振り払い方など。 普段からすぐ走れる格好を。室内でもサンダル履きはダメ。 外部への連絡は、ただだけでなく、連絡したということが他の教員に伝わらないと重複したり、不安のまま対応したりしなければならない。不審者にわからないように伝えるため暗号（隠語）を決めておく。 110番をしたら電話は切らずにおいておき、状況が伝わるようにしておく。 	 

<p>15:45 ～ 16:10</p>	<p>【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> 先ほどの死角さがしで撮影した写真をプリントアウトし、班ごとに模造紙上の図面に貼り付ける。 その後班ごとに結果を発表 ～お茶の水女子大学附属幼稚園は園庭が小高い山のようになっており、園舎から山の上は死角となっている。園の外を回ると、園庭や山の上も一望でき、かつ隠れられる場所が何ヶ所もあった。 ～園内へも一度侵入してしまえば隠れる場所がいくらかもある。 各教員とも改めて園内外の死角の多さを認識した。 	
<p>16:10 ～ 16:25</p>	<ul style="list-style-type: none"> 国崎さんよりまとめのお話。まずは気付くことが大切。今日行った死角探し・不審者対策訓練などの結果をぜひ保護者にも示して、安全への協力を訴えてほしい。 事前の打ち合わせ時に国崎さんが「異常があったことを知らせるときに「黄色いパンダ」という暗号を使ってみたら」と提案したが、早速使われていた。できることから取り入れていく姿勢は素晴らしい。 ハードの整備にはお金もかかるが、今すぐにもできることがたくさんある。警備員を雇う予算が無ければ保護者が当番制で巡回する方法もある。情報公開し、一緒に問題意識を持ってもらうことが必要。 「パトロール強化中」「監視カメラ設置」「私服警官巡回中」などのステッカーをどんどん貼ってはどうか。また、保護者の入園パスに「安全な幼稚園をつくろう」といった標語のシールを貼ったりバッジを作ったりする。がんばって防犯・防災しているという‘匂い’がすれば犯罪や災害被害は減っていく。 	

<実施後のアンケートより>

- 不審者の侵入等が多発して「学校・幼稚園等は安全な場所」という意識は通用しなくなっているということは、確かにそのとおりだと思います。校門のところでのチェック、来校者への声かけ等は今日からでもできることかと思えます。
- 実際に体験してみて、非常時にいくつもの事柄を冷静に判断しなければいけないのだと思った。現実に直面した場合に、冷静な判断と適切な行動がとれるよう考えさせられ、とても有意義なプログラムであった。
- 私たちが体験したことを保護者にも伝えて、保護者の意識も変えていかなければと思いました。

<幼稚園よりの報告>

- ※附属幼稚園で専門性の高い訓練（研修）を実施したことが学内で評価され、年度内に幼稚園と小学校にフェンスが設置されることになった。
- ※保護者もパトロールを始めることになり、幼稚園全体で安全・防災対策を考えていこうという意識が高まっている。

○●あなたの抱く不審者像は？●○

学校で早急に対応が求められているのが不審者対策です。でも実際何をどうしたらよいか悩んでいる学校が多いのが現状です。職員会議などの場を通じて、少しずつ対策をしていきましょう。まずは「不審者」像を考えるとところからはじめてみては？

A4サイズの紙に、以下の質問を並べて、「不審者像チェックシート」をつくります。

「不審者」と聞いてあなたは今どんな人を連想しましたか？

- Q1. その人は男性ですか。女性ですか。
- Q2. その人の年齢は何歳くらいですか。
- Q3. その人はどのような顔つきですか。
- Q4. その人はどのような職業だと思われますか？
- Q5. その人はどのような行動をしてどのような雰囲気をもっていますか。
- Q6. ご自身がイメージされたその不審者像のイラストを描いてください。

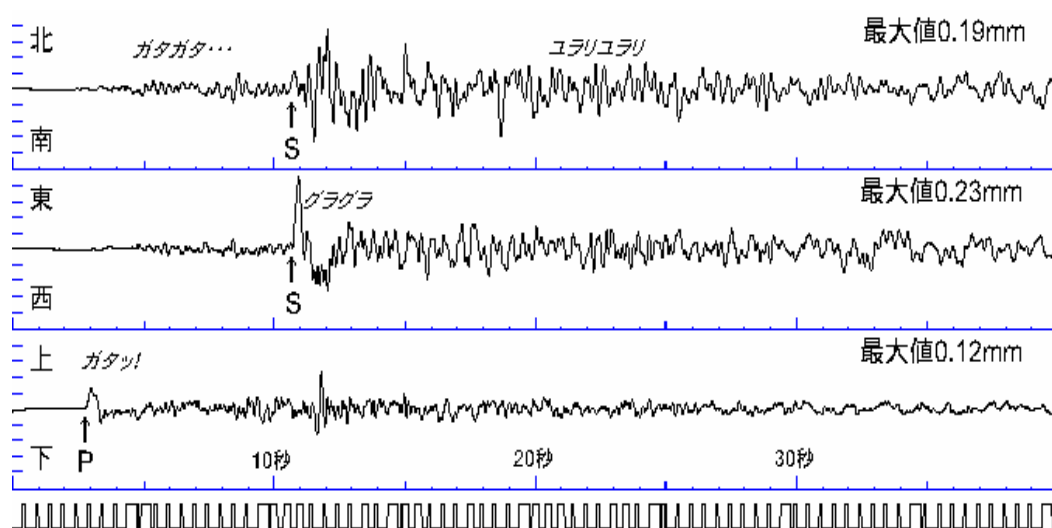
教職員全員が記入したものを黒板等に並べて貼り出します。すると「不審者像」に偏りがあることがわかります。多くは「目つきが悪く、挙動不審で無職の男性」といったイメージではないでしょうか？しかし、若い女性やまさかあの人か？といった人も事件を起こしています。不審者に固定概念を抱かず、どうすれば安全な学校づくりができるか話し合ってみましょう。

○●初期微動継続時間●○

地震波にP波（縦波）とS波（横波）があるのはご存じですね。震源域で断層が動くところの2種類の波が同時に発せられますが、伝わるのが速いP波の揺れを先に感じるようになります。その後、遅れて大きな振幅を持つS波の揺れを主要動として感じるわけです。

ところでP波が到着してからS波が到着するまでをP S時間といい、一般には初期微動継続時間として知られています。P波の後に小さな揺れが続くのはP波が遠回りしたり、途中で別の波に変換したりで後から後から遅れて到着しているからです。地殻の構造が単純だったり、震源域が非常に遠くだったりするとあたかも2回の地震が続いて起こったと思うこともあります。

関東地方でよく感じる地震は、この初期微動を区別できることが多くてその時間（秒）に7～8を乗じると震源までの距離（km）をおおよそ察することができます。この関係を式で示すとき（初期微動継続時間に関する）大森公式といって知られています。地震が起きたとき、時計を見ながらその揺れを味わう余裕があればパニックに陥ることなく、次の防災行動も適切に取れることでしょう。ただし、震源域が直下で近いときは、P波も強く、間髪なく破壊的なS波が襲ってくるという覚悟もしておきましょう！



上の図は、ある地震において一観測点の動きを水平2成分（北南と東西）、上下成分の変位波形を示した地震計記録です。PからSの約8秒間が初期微動継続時間となります。